



こころの主旋律

永田円了

The Last Resort

歌は伴奏が入ると、出来映えはどうであれ、それなりに何かいい感じに聞こえる。作曲も和音が入ると、あつという間に深みが増し、作品と呼べるようになる。でももし、伴奏なしで歌えと言われたら、和音なしで作曲しなければならないとしたらどうだろうか。

今回のテーマは、あなたにとって主旋律とは何なのか。本来、副次的である伴奏で、主旋律の貧弱さをごまかしていないだろうか。



お寺の主旋律

30万人の僧侶、6,000万人の信者をもつ日本全国 76,000のお寺が今、危機をむかえている。境内墓地からお墓を撤去することまで考える寺離れが進んでいる。江戸時代から習慣付けられてきた檀家制度がいま崩れようとしている。まさにお寺の主旋律が問われているのである。仏の教えを説く仏教から今、何を学べばよいのか。



寺院は宗派に偏ることなく、仏の知恵を語り継ぐことが主旋律である。仏の主旋律は、解け（ほどけ）と読み解く。では、何を解くのか。ブッダは言った。人には二つの苦しみがある。一つは肉体の苦痛（pain）、もう一つは頭（マインド）で思う苦しみ（suffering）。

肉体的な苦しみは、全ての動物に共通するもの。しかし、頭の中（マインド）の苦しみは人間だけがもつものであり、これがやっかいなもの。頭でこね回してできあがってくるこの“苦しみ”は、その正体を知り、逃げずに対峙すること。過去や未来に揺れ動く自分の中心を、しっかりと“今”に置くことで解放に導かれるとブッダは説いた。

自分の才能を否定することは罪

この世に生を受けた人間の主旋律とはなんだろうか。罪の定義に出会って驚いた。罪とは「射手の矢が的を外れる」こととある（Eckhart Tolle, A NEW EARTH）。つまり罪とは「人間が本来の自分を生きていないこと」なのである。

70兆分の1という希少な確率で、私たちはこの世に生まれた。天から授かった一人ひとりの命が、本来もつ美しい主旋律のメロディを、周りの雑音で見失ってはならない。飾りすぎて本体が見えなくなってはならない。



ダスティン・ホフマン(68歳)

<事例>

辻井伸行／カーネギー本番まで、あと2ヵ月半、加古隆から作曲法を学ぶ

左手を封印しメロディだけの力で作曲、

クローズアップ現代／岐路に立つお寺、お寺が潰れる

日本生命 CM /心配・不登はみな捨てたい、おつと愛だけは、、、

井上陽水／傘がない1972年 主旋律はどっち？

宮本武蔵／刀研ぎ屋にて、魂を研ぐ 武士の主旋律

チャングムの誓い／側室になるより、医術こそが主旋律

ダスティン・ホフマン／自分の才能を否定するのは罪、ピカソの名言

星野富弘／文字は手でなく、心で書く

こころの時代／高史明、息子に言った三つのこと、主旋律を根本から見直す

平清盛の父・忠盛／ぶれない心の主旋律

岡林信康／私たちの望むものは



星野富弘